

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100699		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹2号館		
所在地	佐賀県佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	令和3年10月13日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園に囲まれた環境の中、顔馴染みのスタッフが、入居者・ご家族一人ひとりと向き合いながら、自立支援を念頭に置き、家庭での暖かみのあるサービスを提供できるよう努めています。また、これまで培ってきた運営のノウハウを基盤とし、認知症の病気によって起こる様々な症状に対し、専門スタッフが見守る中で、精神的な安定や、生活リハビリテーションを目的とし少しでも自宅のような生活を続けられるよう関わらせていただいています。現在は新型コロナウイルス感染予防対策のため、面会等の制限がありますが、リモート面会を利用して頂くなどご家族との関りは大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紅葉した山々とみかん畑が広がり、桜や古墳もある自然豊かな所に佇むホームである。母体法人が運営する他の施設も敷地内にあり、法人の経営理念や処遇モットーを基に事業所同士の連携も築きやすい。コロナ禍で人との交流が制限される中でも、敬老会のリモートでの家族参加や外出支援、料理やおやつ作りなど、職員の方は入居者や家族の思いや願いを大切にしている。「その人らしく生活してほしい。」「終の住処として、最後まで楽しく過ごしてほしい。」という、同じ志を持つ職員が、日々の入居者の笑顔の支えている。また、愛情の込められた日常の中にも、研修会参加や自己研鑽を通じての職員の高い技術と知識、知恵が垣間見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の部会開催時、シオンの園「経営理念、処遇モットーを全員で唱和し実践することを確認し意識を高め実践している。事業所の基本方針は年度始めの事業計画書で確認をしている。	法人の理念は日頃より職員に浸透し、理念を基に年度始めのホームの目標を立てている。また、毎月の部会や法人研修の際にも、理念を学ぶ機会がある。職員は課題に直面した際、理念に立ち返りながら解決を試みている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度はコロナウイルス感染予防対策の為、秋祭りも中止となっており、地域との付き合いも遠慮させていただいている。	法人の経営企画室を中心に地域とのやり取りを行い、その中でホームの役割を担っている。コロナ禍で地区行事やホームの催し物はできないが、定期的にボランティアの方が来て、掃除や植物の手入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「みかん倶楽部」と称し地域の公民館に向き、事業所の紹介や健康体操等の紹介を行っていたが、今年度はコロナ感染予防対策のため、実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催予定であるが、本年度はコロナウイルス感染予防対策の為、一度も開催できていない。行事報告、予定、利用者様や職員の動向、ご利用者様の近況などは中止の案内に同封し報告している。	コロナ禍により対面での会議を中止し、書面でのやり取りを行っている。書面と一緒に送るホームのアルバム写真は、皆さんから喜ばれている。書面での参加者への意見を集約できる仕組み作りは、まだである。	書面での会議参加者への意見を集約できる仕組み作り、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染予防対策のため運営推進会議は中止となっているが、ご家族へ送付している行事報告、予定、利用者様や職員の動向、ご利用者様の近況などを市町村担当者へもお渡し取り組みを知っていただくよう努めている。	日頃より、法人全体で役場や地域包括支援センターと連絡を取り、地域の実情に即した対応を行っている。また、災害時には地域の避難所としての役割を果たし、ホームでも緊急時の要介護者の宿泊所になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束について正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。身体拘束について、法人として学ぶ機会が確保されており、言葉や薬による行動抑制等についても職員は理解している。また、法人全体でも外部講師や動画配信の研修会を行い、職員の意識、スキル向上に役立っている。職員は研修を受けての感想や自己評価を行い、ケアの振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4月に部署内での勉強会や5月の園内研修を通し、自己の振り返りを行いながら、常に意識を持って日々の業務を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は11月の園内研修において「リスクマネジメントと併せ「権利擁護」についての講義を開催予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項の十分な説明を行い、また、退居時にも話し合いの場を設け、ご理解、ご納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在運営推進会議は中止対応。面会も中止対応中のため、電話での聞き取りにて、ご意見を尋ねる機会を設けている。来園頂いたご家族様とは玄関先ではあるが、面談を行っている。	面会時や電話等で入居者の様子を伝え、適宜家族から意見をもらうようにしている。また、介護計画作成時にも話し合いの場を持ち、運営に関する意見も聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会等での意見、提案を基に上申している。	日頃より、職員間で意見交換しやすい雰囲気がある。毎月の部会で現場の意見を集約し、管理者が法人の責任者に報告する仕組みが整っている。また、どの職員にも必ず発言する機会があり、偏りの無い意見となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課及び福利厚生にも力を入れていただいている。6月の園内研修ではハラスメント研修を開催された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識、技術の向上に努めている。現状では法人外への研修参加は難しい状況のため、PCを使用した園内研修に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は法人外への研修参加ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで、施設内の見学や面談を通じ、本人様が安心してご利用いただけるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで、施設内の見学や面談を通じ、本人様が安心してご利用いただけるよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネにて十分に配慮されている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の注ぎ分けや後片付け、洗濯物干しや洗濯物畳み、掃除等の家事を一緒に行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス会議等を通じ、より良い信頼関係を築く努力をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞いのはがきを書いていた。新型コロナウイルス感染予防対策の為、面会に関しては制限を設けているため、思うような対応はできていない。	感染対策や制限時間を設けながら面会を再開し、家族との交流を深めている。また、民生委員さんや元同僚の方など、馴染みの人にも電話や手紙、年賀状、暑中見舞いを送りながら関係を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員全員が共有し、ご利用者お一人おひとりの個性を大切にしながら、トラブルになる前の早目の対応を心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取組みを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス会議や日々の生活の中で、常に本人様の希望や要望を聞き出すよう努力している。また、いつでも利用者様主体であることを忘れずに取り組んでいる。	入浴時や血圧測定時等、ゆっくりとした時に入居者の思いを聞いている。また、意思表示が難しい方には、表情や仕草、何気ない会話から読み取っている。また、職員間で話し合い、誕生日には好みの料理を提供する等、思いや意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやカンファレンス会議、日常の会話等を通じ、生活歴や今までの経過を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を把握できるよう、部会の中でケース検討を行い、職員全体で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年に1度、ご家族、ご利用者様に同席して頂き、意見や要望等を反映した計画作成に努めている。	電話や面会時に家族の意向確認を行い、入居者と家族同席の下、介護計画を作成している。また、介護目標や実行表を基に職員は日々介護を行い、ケース記録やモニタリングを通じて、入居者の課題に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は個別のケース記録に記入。また、部会においてもケアプランの実施状況等を協議しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人様やご家族の要望に応じ、対応できる事であれば、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナウイルス感染予防のため面会の制限や外出等の制限があり、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の希望があれば、協力医へ主治医を変更しているが、以前からの主治医を希望される利用者様に関しては、ご家族を通じ、密に情報交換を行うよう努めている。	受診時、家族に入居者の様子を伝えたり、手紙でも医師に伝え情報共有を行っている。また、夜間緊急時も、医師や訪問看護師との連絡体制が取れている。専門医の受診は、家族で出来ない時はホームで行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にて健康管理を行い、急な対応や相談等も訪問看護と連絡を取り合い対応している。また、法人の医務看護課職員の協力も得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を行いながら、早期退院に向けての話し合いの場を設けていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に医療に関する調査を行い、家族の意向を伺っている。また、重度化した場合における指針及び看取りに関する指針を定めており、ご家族と話し合いを行いながら方針を共有し、協力医療機関と共に支援していく体制づくりに努めている。	重度化した際は、医師や看護師、家族と連携を取り、治療方針について随時話し合っている。看取りの際は家族も入居者の部屋に寝泊りし、家族と一緒にエンジェルケアを行うこともある。また、利用終了後、職員同士で看取りの振り返りを行う機会もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう周知徹底を行っており、その場での実践に備える努力をしている。8月の園内研修(リモート)も全員視聴後、モニタリングシートを提出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置。また、年間消防計画を作成し、昼間、夜間帯での定期的な消防訓練を予定している。	年3回、日中や夜間の火災避難訓練を行っている。また、法人全体の災害対策マニュアルの下、役場や消防団、地域住民とも連携し、他県からの救援物資の供給体制もある。災害時の地域の避難所の機能も担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会、勉強会を通じ、常に個人の尊重を重視した対応を心掛けている。	トイレ誘導時には入居者の耳元で伝え、居室に入る際は、誰もいなくても一声かけている。入浴時にはタオルやカーテン等で体を隠し、同性介護にも気を配っている。また、個人情報ファイルも安全に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し自己決定の存続が図れるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活を心掛け、利用者様の希望に添った支援となるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装など本人様の意思を尊重しながら対応している。定期的に理髪サービスを実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のおかずの注ぎ分けや配膳準備、食後の後片付けなどを依頼し職員と共に取り組まれている。	入居者に合わせた食事形態に整え、誕生日会や定期的な嗜好調査を行い食事を楽しめるよう支援に努めている。また、朝食時に味見をしてもらったり、季節にちなんだ料理やおやつ作りを行っている。運動会の時には、お弁当風の食事を提供し、食事も含めた雰囲気を楽しめるよう工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事形態や量を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行える利用者様には言葉掛けを行い、介助が必要な方には個人に応じた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内を行い、また、自立の利用者に関するトイレ内の確認を行うことで、利用者様の排泄状況を排泄表により把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っている。	入居者の状態や排泄状況に合わせ、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレの利用等、個々に合わせた対応を行っている。排泄の自立支援に努めた結果、退院後オムツだった入居者が、トイレ誘導を行えるようになり、リハビリパンツに替えることが出来た事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品のおやつを取り入れ、また、運動参加の働きかけをおこない、できる限り自然排便となるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施できる状態。現在は午後の入浴を実施しているが、その時々利用者の状況や希望に添った対応に心掛けている。	リフト付きシャワーキャリーもあり、入居者の状態やその時々体調や状況に合わせた入浴を行っている。また、入居者が心地良く入浴できるよう同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態や日中の様子等、状態把握を行い、ソファーに寛いでいただいたり、場合によっては自室での静養を勧めるなどの対応を行っている。また、できるだけ日中の活性化を図りながら安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は、いつでも閲覧できる状態。内服薬変更時の利用者様の症状の変化については、主治医やご家族への情報提供に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割を持っていただける支援や、遣り甲斐や喜びを感じていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出できるよう努めたがい、現状では難しく、どうしても団体行動になっている。現在、コロナウイルス感染予防対策のためドライブ等の実施もできていない。	感染対策を徹底しながら、外気浴や散歩、ドライブ等を行っている。最近では、車窓からではあるが、河川の鯉のぼりやバルーン、花見やコスモスを見に行った。家族の要望があれば、感染対策を行った上での冠婚葬祭の参加の支援も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応しているが、現在は利用者様個人で保管されている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはその都度対応しており、はがきや手紙が届いた時は返事を書いていただいている。また、リモート面会も対応中。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は、季節やその日の天候によってカーテンや窓の開け閉め等の配慮を行っている。室内温度、湿度については、1日3回のチェックを行い、快適に過ごして頂けるよう配慮している。	天井が高く開放感があり、大きな窓からは暖かい陽光が差している。壁には入居者の写真や作品、家族から贈られた品々が飾られている。また、ウッドデッキの植木鉢には、季節ごとの花や植物がある。職員は感染対策を行い、足音や声のトーンにも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間テーブルや周辺のソファ、天候の良い日にはウッドデッキなど、好きな場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物品や好みの身の回りの品の持ち込みについて説明を行い、ご家族で準備をいただいている。	馴染みの品や家具、写真が飾られ、入居者の思い入れのある部屋づくりがなされている。また、入居者の生活習慣や体に合わせ、ベッドや家具の配置を決めている。布団で寝ていた場合は、畳を敷いて布団で寝るようにする等、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた対応を心掛け、安全かつ自立した生活が送れるよう努力している。		